２０１８（平成３０）年度

# 学習計画
# （シラバス）

第２学年普通科理文系

# 科目一覧（単位数）

- 現代文Ｂ（２単位）
- 古典Ｂ（２単位）
- 倫理（２単位）
- 数学ⅡＢ（６単位）
- 体育（２単位）
- 保健（１単位）
- コミュニケーション英語Ⅱ（５単位）
- 家庭基礎（２単位）
- 化学基礎（理系選択）（２単位）
- 化学（理系選択）（２単位）
- 物理基礎（選択）（２単位）
- 生物基礎（選択）（２単位）
- 化学基礎（文系選択）（２単位）
- 世界史Ｂ（文系選択）（２単位）
- 日本史Ｂ（文系選択）（２単位）

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 現代文B | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 数研出版 『現代文B』 | 副教材 | | 第一学習社『パーフェクト常用漢字』<br>大修館『ビジュアルカラー国語便覧』 | |
| 教科目標 | 近代以降のさまざまな文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 授業は「小説」「評論」を中心に、論理的に読むことを目標とします。そのためには、<br>①基礎的な国語力（漢字・語彙・用法等）を高める。<br>②文章の要旨をつかむ技術（文の構造）を身につける。<br>③文章を正確に読んだ上で自分の感受性や思考力、表現力を高める。<br>ということに重点をおいて授業を行います。 | | | | |
| 授業の留意点 | さまざまな文章に触れることで読解力を養っていきます。そのためには、自分で考え、的確に表現しようとする努力が必要です。黒板に書かれたことをノートに写すだけではなく、問題についてきちんと考え、要点を整理し、自分の考えをまとめる習慣を定着させましょう。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | 毎週実施する漢字テストや国語力養成講座（国語常識の確認）を行うことで、国語に関する知識や語彙力を養いましょう。その上で、正しい日本語を正しく使うことができるよう、日頃から意識して下さい。<br>また、日頃から書籍や新聞、雑誌など、さまざまな分野の文章を読んでみてください。積極的に「読む」ことで、内容を素早く的確に読み取る力が定着するはずです。 | | | | |
| 課題・補習 | 必要に応じて行いますが、毎週実施する「漢字テスト」に向けた学習は各自で計画的に進めてください。 | | | | |
| 試験について | 試験は定期試験の他に必要に応じて小テスト等を実施する予定です。 | | | | |

| 評価の観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 |
|---|---|---|
| | ①関心・意欲・態度 | ・授業への取り組み<br>・課題・提出物の状況<br>・ノート、プリントの内容 |
| | ②話す・聞く能力 | ・授業への取り組み<br>・発表、スピーチ |
| | ③書く能力 | ・授業への取り組み（作文、レポート等）<br>・課題、提出物の状況<br>・ノート、プリントの内容<br>・定期試験 |
| | ④読む能力 | ・授業への取り組み<br>・課題、提出物の状況<br>・ノート、プリントの内容<br>・定期試験 |
| | ⑤知識・理解 | ・授業への取り組み<br>・課題、提出物の状況<br>・ノート、プリントの内容<br>・定期試験・小テスト・漢字テスト |

| 備考 | |
|---|---|

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

<table>
<tr><td>教科名</td><td>古典B</td><td>単位数</td><td>2 単位</td><td>学年・学科</td><td>2 年　普通科理文系</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="2">精選古典B（三省堂）</td><td>副教材</td><td colspan="2">尚文出版『必携　新明説漢文』<br>尚文出版『シンプルスタイルシリーズ古文単語301』<br>大修館書店『ビジュアルカラー国語便覧』<br>数研出版『体系古典文法　八訂版』</td></tr>
<tr><td>教科目標</td><td colspan="5">古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。</td></tr>
<tr><td>授業内容<br>進め方</td><td colspan="5">①音読により文章のリズムをつかみ、大意を把握する。<br>②語句の意味、文法事項等を確認し、現代語訳をする。<br>③細やかな感性や自然観・人生観など日本文化の根幹をなすものについて理解を深める。<br>④自分の生活や考え方と比較することにより、いかに生きるかを深く考える端緒とする。</td></tr>
<tr><td>授業の留意点</td><td colspan="5">語句や用法の説明、現代語訳については、説明を待つだけではなく自分で事前に調べ、考えをまとめた上で授業に臨んで下さい。黒板に書いてある事柄をただ書き写すだけでは読解力は定着しません。文章をじっくりと読み、問題について自分で考え、理解するように努めて下さい。</td></tr>
<tr><td>学習方法<br>（アドバイス）</td><td colspan="5">予習として、①本文の書き写し　②重要語句の意味調べ　③現代語訳　を行った上で授業に臨んでください。古典文法や漢文の訓読等に不安がある場合は、「体系古典文法」や「新名説漢文」の演習問題に取り組んでみて下さい。</td></tr>
<tr><td>課題・補習</td><td colspan="5">適宜行います。</td></tr>
<tr><td>試験について</td><td colspan="5">定期試験の他に重要古語・漢文句法の小テスト等を実施する予定です。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価の<br>観点・方法</td><td>評価の観点</td><td colspan="4">評価方法</td></tr>
<tr><td>①関心・意欲・態度</td><td colspan="4">・授業への取り組み<br>・課題・提出物の状況<br>・ノート・プリントの内容</td></tr>
<tr><td>②話す・聞く能力</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>③書く能力</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>④読む能力</td><td colspan="4">・授業への取り組み<br>・課題・提出物の状況<br>・ノート・プリントの内容<br>・定期試験</td></tr>
<tr><td>⑤知識・理解</td><td colspan="4">・授業への取り組み<br>・課題・提出物の状況<br>・ノート・プリントの内容<br>・定期試験</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5">古語辞典を用意してください。</td></tr>
</table>

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 倫理 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 「倫理」(東京書籍) | 副教材 | | 「最新図説倫理」(浜島書店) | |
| 教科目標 | 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力態度を育てる。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | ・先哲の思想や心理学・社会学的等の分析方法を知り、基本的知識やその思考方法を身につけるとともに、自らの在り方生き方に対する考えを深めます。<br>・資料集を活用し、複数の資料に触れることにより資料の収集力や活用能力を身につけます。<br>・ペアやグループで考え、理解や思考を深め、表現する力も身につけます。 | | | | |
| 授業の留意点 | 先哲の思想等を、単なる用語暗記の知識として知るのではなく、様々な思考や分析方法を幅広く学びます。その上で、自己にとって、同時に、社会にとってより善い生き方や在り方を探求する力を身につけることを目標とします。また、様々な思想や資料・データを分析し、客観的に考える力を養うことも目標をします。 | | | | |
| 学習方法<br>(アドバイス) | 先哲の思想や学問を学ぶことの意義は、単純な用語暗記にあるのではなく、自己中心的な視点・思考を脱出し、より客観的なものにしていくところにあります。様々な思想や分析方法を知り、その中から人間としてのより善い生き方や在り方を考えいくこと、そこに倫理という科目の意義があります。倫理を学習することで、社会の中で生きる自分のより善い生き方を考え、同時に、よりよい社会の在り方を思考できる力を身につけることを目指してください。 | | | | |
| 課題・補習 | 必要に応じて実施します。 | | | | |
| 試験について | 年間4回の試験を実施します。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 先哲の思想を手がかりに、自らの人生感や世界感を探求する意欲と態度を持ち、「生きがいとは何か」「自分とは何か」との問いに対して探求しようとしている。<br>(授業態度、発言・発表内容、提出物) | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 先哲の思想から、「人生に生きがいをもたらすものは何か」「善い生き方とは何か」について多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(授業態度、発言・発表内容、提出物、試験) | | | |
| | ③技能 | 先哲の思想や思想史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し得て、読みとったり図表にまとめたりしている。<br>(課題取り組み、提出物、試験) | | | |
| | ④知識・理解 | 先哲の思想についての基本的な事柄を歴史的背景と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。<br>(小テスト、試験) | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 数学Ⅱ・B | 単位数 | 6 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 「数学Ⅱ」(東京書籍)<br>「数学B」(東京書籍) | 副教材 | | 「Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ＋B」(東京書籍)<br>「Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ＋B 解答編」(東京書籍) | |
| 教科目標 | 方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、数列、ベクトルの考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 授業の進め方は、教科書の内容を基本とし、基礎の定着をはかる。その定着具合から判断して、副教材を用いた問題演習を積極的に行い、応用力を身につける。平行履修とはせず、数学Ⅱと数学Bの内容を考慮しながら行う。 | | | | |
| 授業の留意点 | 授業では教科書の内容を中心に行うが、その際「定義」、「定理(公式)」を理解するように心がけ、基本的な例題の解法は疑問点がなくなるまでじっくりと考えてもらいたい。疑問点がある場合には、どこから分からなくなったのかを明確にして質問すること。それが自分自身の弱点を克服する鍵となる。 | | | | |
| 学習方法<br>(アドバイス) | 数学を勉強するにあたっては問題の演習に時間を割くことが重要である。授業に臨むにあたり、できれば予習をしておくことが望ましいが、それよりも復習に時間を割くことが大切である。授業で行った内容の問題演習を、各自副教材を利用するなどして毎日必ず復習すること。<br>問題演習の中で、基本的な計算問題もミスなくできるよう必ず解くこと。計算力を身につけることが、数学の学力を向上させる最良の手である。 | | | | |
| 課題・補習 | 教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題で授業の中で消化しきれなかった問題を課題とする。場合によってはプリント等で課題を補充することもありえる。平常講習、長期休業中の講習では、授業の発展的な内容を扱う。 | | | | |
| 試験について | 試験は4回の定期試験以外にも4回行い、合計8回実施する。その全ての試験を同等に扱い評価の対象とする。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 各章における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。<br>・学習活動への取り組み<br>・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等) | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。<br>・試験　・提出レポートの内容　・提出ノートの内容 | | | |
| | ③技能 | 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。<br>・試験　・小テスト | | | |
| | ④知識・理解 | 各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。<br>・試験　・小テスト | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

<table>
<tr><td>教科名</td><td>体育</td><td>単位数</td><td>2 単位</td><td>学年・学科</td><td>2 年 普通科理文系</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>「ステップアップ高校スポーツ」<br>「現代高等保健体育 改訂版」<br>大修館書店</td><td colspan="2">副教材</td><td colspan="2">指定ジャージ、指定靴<br>指定Tシャツ、柔道着（男子）</td></tr>
<tr><td>教科目標</td><td colspan="5">運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>授業内容<br>進め方</td><td colspan="5">各種運動を実施しながら学んでいく。</td></tr>
<tr><td>授業の留意点</td><td colspan="5">① 指定ジャージの管理<br>② 時間を守る<br>③ 安全性への配慮<br>④ 指示を聞く姿勢と態度<br>⑤ 用具の準備・片付けと協力<br>⑥ 他の生徒との協調<br>⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること</td></tr>
<tr><td>学習方法<br>（アドバイス）</td><td colspan="5">日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。</td></tr>
<tr><td>課題・補習</td><td colspan="5">状況に応じて実施。</td></tr>
<tr><td>試験について</td><td colspan="5">種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価の<br>観点・方法</td><td>評価の観点</td><td colspan="4">評価方法</td></tr>
<tr><td>①関心・意欲・態度</td><td colspan="4">服装・身だしなみ・協調性等</td></tr>
<tr><td>②思考・判断・表現</td><td colspan="4">毎時間の取り組みを観察する</td></tr>
<tr><td>③技能</td><td colspan="4">種目毎の実技試験による評価</td></tr>
<tr><td>④知識・理解</td><td colspan="4">授業内での観察や筆記テスト等</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

<table>
<tr><td>教科名</td><td>保健</td><td>単位数</td><td>1 単位</td><td>学年・学科</td><td>2 年　普通科理文系</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>「現代高等保健体育 改訂版」<br>大修館書店</td><td colspan="2">副教材</td><td colspan="2">「現代高等保健体育ノート改訂版」<br>大修館書店</td></tr>
<tr><td>教科目標</td><td colspan="5">個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。</td></tr>
<tr><td>授業内容<br>進め方</td><td colspan="5">教科書・ノート、必要に応じてプリントを使いながら学習していきます。</td></tr>
<tr><td>授業の留意点</td><td colspan="5">①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとすること。<br>②個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えるよう学習に取り組むこと。<br>③健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けること。</td></tr>
<tr><td>学習方法<br>（アドバイス）</td><td colspan="5">試験が年に2回なので、毎時間の授業で教科書の内容やノートの問題をしっかりと理解し、試験に備えておく必要がある。また、日頃から健康問題や保健・医療サービス等に関心を持つことも重要である。</td></tr>
<tr><td>課題・補習</td><td colspan="5">状況に応じて実施。</td></tr>
<tr><td>試験について</td><td colspan="5">試験は前期期末試験と学年末試験の2回実施。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価の<br>観点・方法</td><td>評価の観点</td><td colspan="4">評価方法</td></tr>
<tr><td>①関心・意欲・態度</td><td colspan="4">授業中の態度や発言など</td></tr>
<tr><td>②思考・判断・表現</td><td colspan="4">課題解決学習への取り組み</td></tr>
<tr><td>③技能</td><td colspan="4">発表やレポートの内容、定期試験</td></tr>
<tr><td>④知識・理解</td><td colspan="4">定期試験、小テストなど</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | コミュニケーション英語Ⅱ | 単位数 | 5 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | Compass English Communication Ⅱ Revised (大修館) | 副教材 | | transfer 英語総合問題演習 コースB<br>Listening Laboratory Standard α・β<br>システム英単語 Basic<br>英文法・語法 Engage | |
| 教科目標 | 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につける。<br>CAN-DO-LISTに基づく具体的言語活動は次の通り。<br>(1) 日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。<br>(2) 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。<br>(3) 日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。<br>(4) 簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 教科書・プリント・ICT機器を用いて音読、英問英答、プレゼンテーションによる内容把握など、4技能を統合的に伸ばすアクティブラーニング型の授業を行う。 | | | | |
| 授業の留意点 | ・言語活動に積極的に参加して学習すること。<br>・音声的な特徴（アクセント・イントネーション）や日本語との違いに注意しながら発音すること。<br>・まとまりのある文章を音読・暗唱して英語の文章の流れに慣れること。<br>・4技能（聞く・読む・話す・書く）をバランス良く学習すること。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | ・授業中の言語活動に積極的に参加すること。<br>・教科書やプリントの復習、ユメタンの予習、復習を心がけること。<br>・音読練習をすること。 | | | | |
| 課題・補習 | ・課題としてユメタン小テストに向けた予習を課す。<br>・定期的にtransferの提出を求める。 | | | | |
| 試験について | 定期試験を年4回実施する。また、英単語コンクールを年2回実施する。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 積極的な態度で言語活動に参加し，相手とのコミュニケーションを図ろうと努力している。授業で学んだ表現を積極的に活用して話したり書いたりしている。<br>・学習活動への参加、取り組み態度 | | | |
| | ②外国語表現の能力 | 英語で話し合ったり意見をまとめたりすることができる。<br>情報や考えなどをまとまりのある英語で書くことができる。<br>聞き手に伝わるように英語で音読したり暗唱したりすることができる。<br>・定期試験、学習活動への参加や取り組み態度、<br>提出物（プリント、ワークシート）、プレゼンテーション | | | |
| | ③外国語理解の能力 | 英語を聞いて理解したり，概要や要点をとらえたりすることができる。<br>ジャンルや目的に応じて読み方を工夫しながら，概要や要点をとらえることができる。<br>・定期試験、学習活動への参加や取り組み態度 | | | |
| | ⑤言語や文化についての知識・理解 | 単語，熟語，文法などについて，その意味や適切な使い方を理解している。<br>英語を使う上で必要な文化的背景について理解している。<br>・定期試験、小テスト | | | |
| 備考 | パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。 | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 家庭基礎 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
| 教科書 | 東京書籍<br>家庭基礎　自立・共生・創造 | 副教材 | | 実教出版　生活学Navi<br>資料＋成分表　2018 | |
| 教科目標 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術の基礎・基本を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | ・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を学びます。<br>・自分自身や現在の生活を深く見つめ、自立を目指し将来を考えることが出来るように学習を進めます。<br>・多様な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。 | | | | |
| 授業の留意点 | ・家庭科の各分野や他教科での学習と関連づけて考えるようにしましょう。<br>・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。<br>・ワークシートに授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をしましょう。<br>・ワークシート、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | 家庭基礎を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を日常生活に生かすことです。学校での学習を家庭生活で実践し、将来に生かせるようにしてください。 | | | | |
| 課題・補習 | | | | | |
| 試験について | 定期試験は前期中間、前期期末、後期中間、学年末（計4回）の実施予定です。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、意欲的に学習し、生活を向上しようとする実践的な態度が身についたか。<br>※授業態度・ワークシート等 | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて課題を見つけ、課題解決のために考え工夫する力が身についたか。また、自分の考えなどを表現する力が身についたか。<br>※定期試験・ワークシート・発表・レポート等 | | | |
| | ③技能 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて、自立のために必要な基礎的技術が身についたか。<br>※実習・ワークシート・作品・レポート等 | | | |
| | ④知識・理解 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて基礎的・基本的な知識が身についたか。<br>※定期試験・ワークシート等 | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 化学基礎 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 改訂版　化学基礎（数研出版） | 副教材 | | 基本セレクト化学基礎（数研出版） | |
| 教科目標 | 化学は理科全般を理解する上での基礎科目として位置づけられています。化学の基礎的な概念や原理・法則を理解してもらうことで、これを道具として利用し、物理・生物・地学分野を含めた、自然界に内在する原理・法則を探求し、解明する能力を養うことが最大のねらいです。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 理文系の理系進学希望者における化学基礎は前期集中科目となります。前期4単位で2単位の化学基礎をすべて履修します。問題集の中の授業で取り扱わない問題は、予習・復習の手段として、家庭で活用して下さい。<br>生徒間で話し合い、問題解決してもらう場面が多々あります。協議参加の姿勢も評価に入るので、積極的に話し合いに参加して下さい。 | | | | |
| 授業の留意点 | 2・3学年で化学基礎・化学と連続して履修します。そのため、化学基礎の授業でも化学の分野について触れるため、化学基礎・化学どちらも密接に繋がっていることを意識しつつ授業に取り組んでください。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | 化学基礎の内容は化学全般における基盤となります。わからないところは早めに聞きに来るようにしてください。<br>理論分野で比を用いることが多いので数学の授業とのつながりも大事にしてください。<br>理科はイメージが必要な科目です。文章から求められていることを正確に把握できるよう、読解力も養うようにしてください。 | | | | |
| 課題・補習 | とくにありません。問題集は各自自分のペースで進めてもらってかまいません。 | | | | |
| 試験について | 前期に二回の試験を実施します。到達度によって単元テストを行う場合もあります。<br>以下にあげた観点を元に試験を作成します。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 周囲と協力して問題に取り組むことができる。<br>授業中の質疑応答に積極的に参加することができる。<br>身の回りの現象に化学的な視点をもって接することが出来る。 | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 実験操作において、与えられた条件から解答を導くことができる。<br>問題の解説を第三者にわかるように説明できる。 | | | |
| | ③技能 | 応用問題を学んだ知識を利用して解くことができる。<br>実験操作を正しく行うことができる。 | | | |
| | ④知識・理解 | 小テスト等により、基礎知識を理解している。<br>基礎基本となる法則、原理を正しく用いている。 | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 化学 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 改訂版　化学(数研出版) | 副教材 | | フォトサイエンス化学図録(三訂版)(数研出版)<br>三訂版　リードα　化学　(数研出版) | |
| 教科目標 | 私たちの身の回りには、さまざまな物質が存在しています。化学の授業では、物質の構成・結合方法や平衡状態を理論的に学ぶことで、化学反応の進み方やしくみを理解していきます。また、無機物質および有機化合物のさまざまな性質を学び、それらがどのように反応し、用いられているか理論的に考えていきます。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 化学は後期の授業となります。前期で学んだ化学基礎の内容を踏まえた上で理論化学を学んでいきます。理論化学では問題集を多く活用するので、授業で取り扱わない問題に関しては自習で活用してください。無機・有機に関しては単位の都合上来年度の範囲となりますが、授業中に出てきた物質の名前は極力その時々で覚えられるようにしてください。 | | | | |
| 授業の留意点 | 板書をノートに写す際には、黒板そのままを写すだけでは意味がありません。レイアウトはもちろん、自分で重要だと思う箇所を強調して書くなど、後で自分が見てわかりやすいように工夫してください。 また、実際に皆さんに実験をおこなっていただく場面があります。化学物質は取り扱いが非常に困難で危険なので、指示以外の行動は控えてください。 | | | | |
| 学習方法<br>(アドバイス) | わからなくなったときは後回しにせず、積極的に質問してください。進行上離れている分野でも密接に繋がっていますので、分類分けすることなく、化学という科目として全てとらえてください。計算問題を解くスピードも重要になってきます。他教科ですが、計算では数学、文章題としての国語。全ての科目が繋がっています。全教科をうまく自分の力にして問題に取り組むようにしてください。 | | | | |
| 課題・補習 | とくにありません | | | | |
| 試験について | 後期に二回の試験を実施します。到達度によって単元テストを行う場合もあります。以下にあげた観点を元に試験を作成し、観点の評価としても用います。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 周囲と協力して問題に取り組むことができる。<br>授業中の質疑応答に積極的に参加することができる。<br>身の回りの現象に化学的な視点をもって接することが出来る。 | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 実験操作において、与えられた条件から解答を導くことができる。<br>問題の解説を第三者にわかるように説明できる。 | | | |
| | ③技能 | 応用問題を学んだ知識を利用して解くことができる。<br>実験操作を正しく行うことができる。 | | | |
| | ④知識・理解 | 小テスト等により、基礎知識を理解している。<br>基礎基本となる法則、原理を正しく用いている。 | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

<table>
<tr><td>教科名</td><td>物理基礎</td><td>単位数</td><td>2 単位</td><td>学年・学科</td><td>2 年 普通科理文系</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>改訂版　物理基礎（数研出版）</td><td colspan="2">副教材</td><td colspan="2">リードLightノート物理基礎（数研出版）<br>フォトサイエンス物理図録（新課程版）（数研出版）</td></tr>
<tr><td>教科目標</td><td colspan="5">身近な事柄・現象を観察し、それらを記述するための基本的な概念や原理・法則を学ぶ。その上で科学的な自然観を身に着け、得た知識を日常生活に応用する能力を身につけるとともに、自然現象に対する探究心を高めることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>授業内容<br>進め方</td><td colspan="5">基本的には教科書に沿って授業を行うが、内容によっては理解を深めるために発展的な内容も扱い、現象を物理的に観る能力を養う。また教科書の練習問題、副教材の問題演習を解き、基礎的な考え方、計算能力を身につけていく。</td></tr>
<tr><td>授業の留意点</td><td colspan="5">授業中に学んだ物理的な公式は、それぞれの文字が何を表すのか、またどのようにして導かれたものなのかを完全に理解しておくこと。その上で問題演習を積極的に行い、公式の理解、物理的に考える力、計算力の向上に努めること。</td></tr>
<tr><td>学習方法<br>（アドバイス）</td><td colspan="5">授業内容に対する自分なりの解釈を常に持ちながら授業に臨んでほしい。考えを持ち探求していくことが、自然現象を科学的に理解する力を身につける助けになる。また一度つまずくとその後の内容の理解が難しくなるので、分からない箇所が出てきた場合にはその都度質問し、復習して理解するという習慣を身につけることも大切である。</td></tr>
<tr><td>課題・補習</td><td colspan="5">適宜プリントや副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。また、成績不振の者に対して補習を行う場合もある。</td></tr>
<tr><td>試験について</td><td colspan="5">定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">評価の<br>観点・方法</td><td>評価の観点</td><td colspan="4">評価方法</td></tr>
<tr><td>①関心・意欲・態度</td><td colspan="4">発言の内容、課題・提出物の状況から学習活動への取り組みに対する関心・意欲・態度を評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する関心・意欲を測ることもある。</td></tr>
<tr><td>②思考・判断・表現</td><td colspan="4">レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する思考力・判断力・表現力を測ることもある。</td></tr>
<tr><td>③技能</td><td colspan="4">レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、定期試験や確認テスト内でも実験技能に関する出題をし、評価材料とすることもある。</td></tr>
<tr><td>④知識・理解</td><td colspan="4">試験・確認テスト・発言の内容により評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する知識・理解を測ることもある。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 生物基礎 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
| 教科書 | 「改訂版　生物基礎」(数研出版) | 副教材 | | 「スタディアップノート生物基礎」(数研出版)<br>「フォトサイエンス生物図録」(数研出版) | |
| 教科目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。また、観察、実験などを通して、生物学的に探求する態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 教科書で重要項目を確認し、観察、実験、資料の活用、意見交換などによりイメージを広げ理解を深める。 | | | | |
| 授業の留意点 | ・授業が始まるまでに、教科書、ノート、資料集を用意する。<br>・板書は自分なりに分かりやすく工夫してノートにまとめ、復習に活用すること。<br>・ノートや課題などの提出物は必ず期日を守り提出すること。<br>・発問に対して積極的に考え、発表するように心がける。不明な点は時間内に解決すること。 | | | | |
| 学習方法<br>(アドバイス) | 用語を丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを常に考える。また、実際に目で見ることができないものは資料集などでイメージを広げ理解を深める。 | | | | |
| 課題・補習 | 必要に応じて行う。 | | | | |
| 試験について | 定期試験は年間4回行う。期間内に授業で扱ったすべてを試験範囲とする。小テストは随時行う。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | ・学習活動への参加態度<br>・ノート、課題等の内容と提出状況 | | | |
| | ②思考・判断・表現 | ・発言の内容<br>・課題(実験レポートなど)の内容<br>・定期試験の解答内容 | | | |
| | ③技能 | ・実験、観察への取り組み<br>・課題(実験レポートなど)の内容<br>・定期試験の解答内容 | | | |
| | ④知識・理解 | ・定期試験、小テストの解答内容<br>・課題の内容<br>・発言の内容 | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 化学基礎 | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
| 教科書 | 改訂版　化学基礎（数研出版） | 副教材 | | 新課程基本セレクト化学基礎（数研出版） | |
| 教科目標 | 化学は理科全般を理解する上での基礎科目として位置づけられています。化学の基礎的な概念や原理・法則を理解してもらうことで、これを道具として利用し、物理・生物・地学分野を含めた、自然界に内在する原理・法則を探求し、解明する能力を養うことが最大のねらいです。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 基本的には教科書に沿って授業を行いますが、内容によっては理解を深めるために発展的な内容も扱います。また教科書の練習問題、副教材の問題演習を解き、基礎的な考え方、計算能力を身につけていきます。 | | | | |
| 授業の留意点 | 授業だけでは問題演習は足りません。積極性を持って自主的に問題演習を行い、基本事項の理解、計算力の向上に努めて下さい。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | 化学基礎の内容は理科全般における基盤となり、系統的に繋がっています。わからないところは早めに聞きに来ないと大変なことになります。理論分野で計算を用いることが多いので数学の授業とのつながりも大事にしてください。理科はイメージが必要な科目です。文章から求められていることを正確に把握できるよう、読解力も養うようにしてください。 | | | | |
| 課題・補習 | 適宜プリントや副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。また、成績不振の者に対して補習を行う場合もある。 | | | | |
| 試験について | 4回の試験を実施します。到達度によって単元テストを行う場合もあります。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 発言の内容、課題・提出物の状況から学習活動への取り組みに対する関心・意欲・態度を評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する関心・意欲を測ることもある。 | | | |
| | ②思考・判断・表現 | レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する思考力・判断力・表現力を測ることもある。 | | | |
| | ③技能 | レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、定期試験や確認テスト内でも実験技能に関する出題をし、評価材料とすることもある。 | | | |
| | ④知識・理解 | 試験・確認テスト・発言の内容により評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する知識・理解を測ることもある。 | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| 教科名 | 世界史B | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 「詳説世界史」<br>山川出版社 | 副教材 | | 「新世界史図説　タペストリー」 帝国書院<br>「一問一答」 山川出版社<br>「ゼミナール世界史」 浜島書店 | |
| 教科目標 | 世界の歴史の大きな枠組みと諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会を主体的に生きるため日本国民としての自覚と素質を養う。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | ・古代から現代までの世界の歴史の基本事項を押さえ、学力を身につけます。<br>・資料集を活用し、複数の資料に触れることにより資料の収集力や活用能力を身につけます。<br>・適宜小テストを行い、知識の確実な定着を図ります。 | | | | |
| 授業の留意点 | 歴史的事象の単純な暗記ではなく、歴史の大まかな流れをつかむことを意識する。時代の変革期の前後関係を詳しく知り、各時代が「なぜ興り、なぜ滅んだのか」についての疑問をもち、それを解決していくことで、知識を定着させていく。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | 世界史の流れをつかむためには地理的知識も必要です。資料集の地図を活用し、各国の関係を視覚的につかんでください。また、小単元ごとに「一問一答」を復習し、基本的事項の確実な定着をはかってください。 | | | | |
| 課題・補習 | 必要に応じて実施します。 | | | | |
| 試験について | 年4回実施します。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。<br>（授業態度、発言・発表内容、提出物） | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。<br>（授業態度、発言・発表内容、提出物、試験） | | | |
| | ③技能 | 世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し得て、読みとったり図表にまとめたりしている。<br>（課題取り組み、提出物、試験） | | | |
| | ④知識・理解 | 世界の歴史についての基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。<br>（小テスト、試験） | | | |
| 備考 | | | | | |

# 平成30年度　北海道中標津高等学校シラバス

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 日本史B | 単位数 | 2 単位 | 学年・学科 | 2 年　普通科理文系 |
| 教科書 | 「詳説　日本史」<br>山川出版社 | 副教材 | | 「図説　日本史通覧」 帝国書院<br>「一問一答」 山川出版社<br>「ゼミナール日本史」 浜島書店 | |
| 教科目標 | 我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って、総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力（歴史を学ぶことによって、1つの物事を広い視野から見つめ、考えることの出来る力）を身につけ、将来国際社会において不可欠な、物事を主体的に判断することの出来る人間としての素質を養う。 | | | | |
| 授業内容<br>進め方 | 中学校で学んだ既存知識ともとに、各時代について、より具体的に学習していく。その際、従来の呼び名や年号など、歴史的事象が見直されている点についても知り、歴史を解明する過程を学習していく。授業では、資料を活用させるのはもちろん、資料をもとに時代の潮流を考察させるなどして我が国の歴史に対する理解を深めていく。 | | | | |
| 授業の留意点 | 歴史的事象の単純な暗記ではなく、歴史の大まかな流れをつかむことを意識する。時代の変革期の前後関係を詳しく知り、各時代が「なぜ興り、なぜ滅んだのか」についての疑問をもち、それを解決していくことで、知識を定着させていく。 | | | | |
| 学習方法<br>（アドバイス） | ・事前に教科書を読むなど予習を行うと、授業での理解や達成度が高まります。<br>・新聞やニュースを見聞きすることで、歴史に関する興味や関心が高まりますので、積極的に現在起こっている諸問題に関心を持ちましょう。 | | | | |
| 課題・補習 | 予定はありませんが、必要に応じて行う場合があります。 | | | | |
| 試験について | 年4回実施します。 | | | | |
| 評価の<br>観点・方法 | 評価の観点 | 評価方法 | | | |
| | ①関心・意欲・態度 | 我が国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。<br>（授業態度、発言・発表内容、提出物） | | | |
| | ②思考・判断・表現 | 我が国の歴史の展開から、各時代ごとの課題を見出し、また、その課題を自分の言葉で表している。<br>（授業態度、発言・発表内容、提出物、試験） | | | |
| | ③技能 | 諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。<br>（課題取り組み、提出物、試験） | | | |
| | ④知識・理解 | 我が国の歴史の展開についての基本的な事項を理解し、その知識を身につけている。<br>（小テスト、試験） | | | |
| 備考 | | | | | |